

ANNUAL REPORT

平成22年度 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」採択事業

学生別コンピテンシー伸張の可視化

 大手前大学 | 大手前短期大学

就業力育成支援室

〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町6-42

TEL.0798-32-7532

E-mail:cplats@otemae.ac.jp

<http://www.otemae.ac.jp/>

外部コラボレーター募集

本学の学生の就業力について実社会の視点から評価して頂く協力者を募集しています。

<活動内容>

- 授業内での活動
・学生の発表評価・就業力をつけるための課題提供（可能な方）。
- 授業外での活動
・学習記録（文章・映像など）をWeb上から評価。

<資格>

- ・本学の教育と本事業の趣旨にご賛同頂ける成人の方。
- ・実社会の視点を提供して下さる方であれば現在の職業の有無、年齢などは問いません。

<活動時期>

- ・2011年秋季期（2012年1月頃）以降、年に数回を予定。
- ・活動開始前に2～3時間の研修があります。
- ・基本的にはボランティアでのご協力を考えておりますが、本学での活動日には軽食とささやかな謝礼をご用意しております。

詳しくは上記連絡先にお問い合わせください。



 大手前大学 | 大手前短期大学

「就職に強いリベラルアーツ型大学・短大」のモデルを目指し、以下の4フェーズに分けて推進します。

1 Competency Department管理

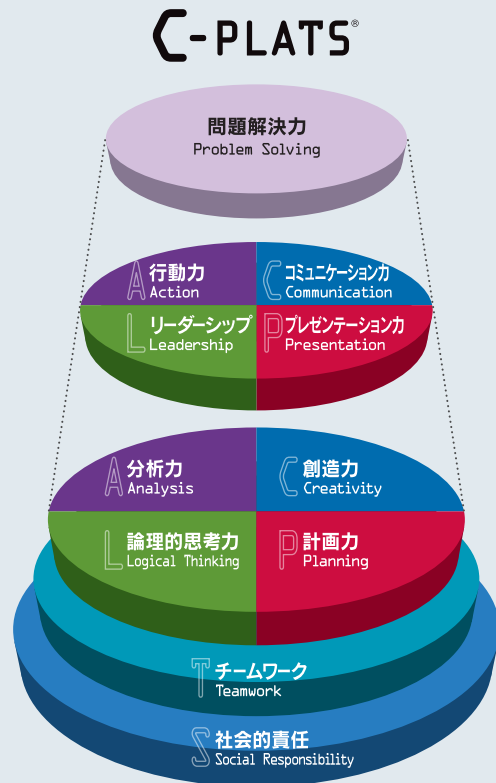
本学独自の問題解決能力開発メソッド「C-PLATS®」をもとに学生を育成します。

全学生が履修する1～4年次必修科目(コア教育)はその成果を実践・応用する場として位置付けし、個々の専門科目では特に重点を置くコンピテンシー項目を指定してその伸張を図ります。

大手前大学はC-PLATS®能力の養成によって、「物事を単に知っている」のではなく、「実際に物事をやり遂げる」人材を育成しています。

＜C-PLATS®とは＞

リベラルアーツカレッジ・大手前大学がその使命として全ての学生に習得させる社会人基礎能力の体系です。学生が将来どのような道に進もうとも、数々の困難な問題を乗り越えて自らの人生を切り開いていくための10の能力(コンピテンシー)の習得を目指します。



2 就業力育成教育の実施

企業や外部組織との連携を前提とする卒業までの一貫した就業力育成教育を、問題解決型学習 Problem Based Learning (PBL) 方式により行います。

＜PBLとは＞

これまで行われていた「知識偏重型教育」は、講義を受けることで[知識レベル]は向上しても、実際にそれを[行動レベル]に結び付けるプロセスを体感するところまで至らず、いわば知識という道具を使えない状態に留まってしまうがちでした。

それを解消すべく、本学は全ての授業において「問題解決型学習」(Problem Based Learning)をコンセプトとしたカリキュラムを展開します。これは、まず問題(課題・テーマ)を設定し、その解決策を創造・発表・討論することを通して自然とC-PLATS®能力を習得させることができる学習メソッドです。PBL型学習を反復・継続することで学生の自発的な学習態度が引き出され、[行動できる力]を養うことができますようになります。

3 教育効果の記録・蓄積

就業力育成の効果を測定するために、学生の発表などのパフォーマンス映像を記録・蓄積する映像ポートフォリオのシステムを構築します。

これらの映像は、学習過程の記録と併せ、自己評価・学生相互の評価はもとより、科目担当教員および外部コラボレーターによる評価のフィードバックを受けるデータになります。

＜映像ポートフォリオとは＞

実際に授業で行ったプレゼンテーションなどを映像記録として記録し、他者が客観的に評価・分析できるようにするためのツールです。データを蓄積できるため、大学生活における個人の成長記録にもなります。

運用に関しては、実際に通信教育課程で用いられているプレゼン映像記録システム(VCメーカー)など、本学で運用実績のあるシステムを最大限に活用します。

4 外部との連携

PBLを実学に結びつけるため、外部コラボレーターから課題提供を受け、学生はその研究・解決・実践の成果を授業中およびポートフォリオ上で口頭発表して、評価を受けます。

その際、本学と関係する外部諸機関と連携して外部コラボレーターを組織化し、協力を仰ぎます。

＜外部コラボレーターとは＞

本学の学生の就業力について実社会の視点から評価して頂く協力者のことです。

学生は、蓄積した映像ポートフォリオや、教室での活動の様子を外部コラボレーターの視点から客観的に評価してもらうことで実社会との接点を見出し、就業への関心・研究心を継続させる原動力を得ることができます。

これらの活動を通じて総合的実践力を高め、就業意欲や就職活動の増強を図り、就職率を向上させることを目指します。

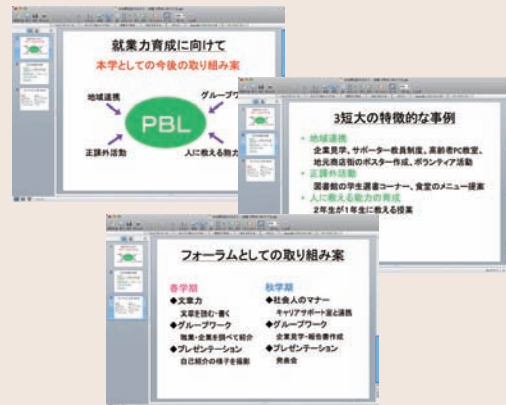
■短期大学FD■ 「就業力育成へ向けて」開催(2月22日)

「就業力育成支援事業」の一環として、短期大学FD委員会のメンバーがPBL学習の先進事例である神奈川県、長野県、東京都に所在する3短期大学への視察訪問を行いました。

平成22年12月6日に神奈川県の短期大学に教員1名、職員2名が、12月9日に長野県の短期大学に教員2名、職員2名が、12月16日に東京都の短期大学に教員2名、職員1名の延べ10名が訪問、その成果について、平成23年2月22日10時～12時に短期大学第2回FDセミナーとして、「就業力育成へ向けてー視察訪問の成果とこれからの取り組みー」と題して本学いたみ稲野キャンパスM101教室で報告会を開催しました。

当日は、短大、大学の教職員が28名出席し、パワーポイントを用いた非常に充実した報告及びPBL授業取組案の説明が行われ、熱心な討議となりました。

訪問した3短大に共通していたことは①地域連携、②正課外活動の充実、③人に教える能力の育成、④グループワークの多用であったと総括され、今後、1年次コア授業の「フォーラム」において、グループワーク及びプレゼンテーションを大幅に増やして導入すること、地元商工会議所の企業などとの産学連携による授業への取組みを推進することについて、確認が行われました。



■就業力育成フォーラム■ 「大手前のPBL」開催(2月28日、3月1日)

PBL学習(Problem Based Learning)による就業力育成を実践していくための教職員自身の具体的な学びの場とすること、学外の方々にも広く取り組みを知っていただき、外部コラボレーターの役割を通して教育参画していただく候補者を募ること、という2つの目的を兼ねて、大手前大学・短期大学合同で就業力育成フォーラム「大手前のPBLー大手前におけるProblem Based Learningによる就業力育成の実践ー」を以下の通り開催しました。

平成23年2月28日(月)	10:00～17:00
午前:基調講演 「大手前の就業力育成の取組(新C-PLATS®)」 大手前大学 現代社会学部教授 大学・短大キャリアセンター部長 芦原直哉	
午後:パネルディスカッション 「社会が求める人材と大学の使命」 平田幸一氏、眞下正宏、芦原直哉、坂本理郎	
「論理的思考力を高める教育手法」 有限会社ビズマインド代表取締役 平田幸一氏(一橋大学非常勤講師)	
平成23年3月1日(火)	10:00～17:00
「コーチングコミュニケーションメソッドの導入手法」 大手前大学 現代社会学部特任教授 マシモ・マネジメント研究所長 眞下正宏	
場所:大手前大学 さくら夙川キャンパス CELLフォーラム	



大手前大学・短期大学の卒業生約2万5000人に案内したほか、本学が開催する市民向け公開講座などの過去の出席者、親密企業に案内を行いました。出席者は卒業生12人、一般企業・社会人11人、大手前大学・短期大学教職員65人であり、2日間でのべ88人の方々が出席されました。

学外の方々にも本学が進めていこうとしている教育について理解を深めていただき、今後、この事業の中心テーマである学外連携を推進していくうえでも貴重なスタートを切ることができました。この結果、「外部コラボレーター」としても、卒業生を中心に14人からご協力いただけることになりました。

参加者からは大変好評をいただき、アンケートの結果、以下のようなご意見をいただきました。

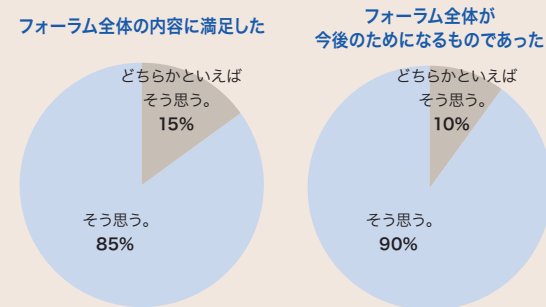
市教育委員会臨時職員
母校の現在を知ることができてよかったです。資料もあって、わかりやすく拝聴することができました。どこかで何かの役に立てたいと思います。PBL、SDLについて詳しく知ることができた。

医療安全管理者
「人が一歩を踏み出す」というのはとても勇気がいることだと思っています。そういう意味では学生が貴大学のPBLのようなプログラムに参加できるのは幸せだと思います。若い人には失敗の経験をたくさんしていただきたいと思います。

通信課程学生
日常生活におけるモチベーションが上がった。また参加したいなあと思います。

大学職員
改めてコーチングを勉強させていただき、良い機会でした。学生さんへ還元していきたいと思います。

会社員
少人数による実施でしたので、集中してお話を聞くことができました。また、初日にも二日目にもワークショップがあったため、理解度が増したように感じます。定期的に実施していただければ幸いです。



■大学教育改革研修FD■ 「これからの大手前大学ーC-PLATS®を座標軸に据えてー」開催(3月10、11日)

平成23年3月10日、11日に兵庫県シーサイドホテル舞子ビラ神戸において、大学教育改革研修FD「これからの大手前大学ーC-PLATS®を座標軸に据えてー」と題し、2日間の宿泊FD・SD研修を開催しました。研修には、大学教員71名、短大教員8名、職員34名の計113名が参加しました。

日本キャリア教育学会会員の大西純一氏を講師としてお招きし、「全入時代の大学の教育力が問われる」と題した講演をいただきました。大西氏は、就職難をもたらしている現代日本の構造的問題について指摘され、就業力育成の必要性を強調されました。大西純一氏には、1月29日の短期大学入学前オリエンテーションにおいても、同様の内容を短期大学新入生の保護者100名を対象にご講演いただきました。

第1日目夕方から、OCDをもとに、第1回のCompetency Faculty活動が行われました。Analysis & Creativity, Planning & Presentation, Action & Social Responsibility, Communication, Logical Thinking, Teamwork & Leadershipの6つの分科会に分かれ、リーダーを中心に深夜遅くまで活発な議論が交わされました。その成果は2日目にパワーポイントを用いて発表されました。

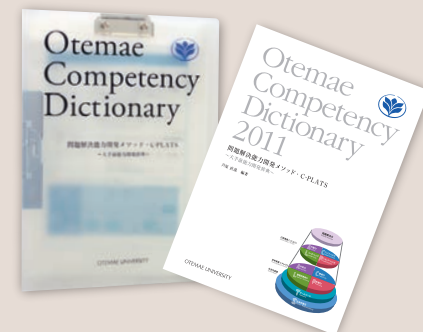
その他、ミニワークショップ、分科会、パネルディスカッションと色々な形で情報共有を図ると共に議論を深める場を設けました。最後に行われたアンケートにおいて、大部分の教職員は、C-PLATS®の理解が進んだと回答しました。



Otemae Competency Dictionary 2011 ー大手前能力開発辞典ー「本編」「メソッド編」

平成22年12月から23年2月にかけて、本学の芦原直哉教授を中心に、8人の教職員がミーティングを重ね、コンピテンシーの定義、到達目標、能力開発概要、到達基準などが書かれた全63ページのOCD(Otemae Competency Dictionary)を開発しました。発刊にあたり、能力育成教育で有名な米国のアルバーノ大学のキャサリーン・オプライエン副学長から巻頭言をいただき、さらに

財団法人関西生産性本部の辻本健二専務理事からいただいた本学の取組へのエールを収録しました。OCD本編に加えて、教育手法をリスト化したメソッド集を開発しました。メソッド集はバインダー形式となっており、現在のところ51メソッドを収録し、今後ファカルティ活動を通じ、充実させていくこととしました。OCDは、3月10日に初版が出版されました。



C-PLATS® マインドブックを作成し、教職員が所持。

大学・短期大学の教職員にC-PLATS®への意識を統一して浸透させるため、C-PLATS®マインドブックを作成し、配布しました。マインドブックはポケットサイズで作成され、これを常に携帯することにより、C-PLATS®について学生、学外関係者から質問を受けるような場合でも全員が同じトーンで説明できるようになります。



学生別 コンピテンシー 伸張の可視化 年次計画



本取組は、平成22、23年度を準備・開発にあて、平成24年、25年度を運用、改善、平成26年度を評価にあてます。

各年度それぞれ、**1**Competency Faculty活動、**2**就業力育成教育の実施、**3**教育効果の記録・蓄積、**4**外部との連携の4分野、さらに**報告・評価**の取組に分かれます。

1 Competency Faculty活動

全専任教員がコンピテンシー別のグループに分かれ、教育方法の研究などのFD活動を行っていきます。平成22年度には、コンピテンシーの定義などが書かれたOCDおよび、教育手法がリスト化されたメソッド集を開発しました。

このOCDをもとに、第1回のCompetency Faculty活動を3月10日、11日の合宿研修で行い、深夜遅くまで活発な議論を交わしました。このようなCompetency Faculty活動は平成23年度以降も継続して行っていく予定です。

OCDメソッド集はバインダー形式となっており、Competency Facultyによって提案された教育メソッドをどんどん追加し、ページが増えていくように想定しています。

また、Competency Facultyの手本となったアルバーノ大学との連携も平成23年度に予定しています。

2 就業力育成教育実施

企業や外部組織と連携して4年間(短大は2年間)の一貫した就業力育成教育を実施します。そのための手段や他大学の事例研究を平成22年度に行いました。

まず、短期大学教職員が中心となり、他短期大学事例の視察を行い、その成果報告会が開かれました。PBLについての研修は、まず、フォーラムが開かれた2月28日、3月1日に「ロジカル・シンキング」、「コミュニケーション」の手法についてワークショップ形式で開催しました。

さらに、3月22日～24日に、主に初年次教育を担当する教員対象にワークショップを開催しました。その成果は、平成23年度4月5日～8日の新入生対象の導入教育で発揮される予定です。

PBLを授業に取り入れる活動はコア教育において、1年次から導入し、徐々に4年次まで拡充する予定です。コア教育以外では、平成23年度から、事前・事後研修をPBL型で行うインターンシップを実施予定です。

3 教育効果の記録・蓄積

学生の発表パフォーマンス映像を記録・蓄積する映像ポートフォリオシステムを平成22年度から開発しています。完成後は、ポートフォリオ上にプレゼンテーション映像、課題設定の意図やプロセスが判断できるドキュメント等が定期的に記録、蓄積される予定です。

蓄積された記録は、自己評価に加え、学生同士での相互評価、科目担当教員、外部コラボレーターの評価を受けることを予定しています。

4 外部との連携

PBLを実学に結びつけるため、外部コラボレーターから課題提供を受け、授業中の成果報告のパフォーマンス、映像ポートフォリオに蓄積された学習記録について、評価を受ける予定です。外部コラボレーターの募集にあたり、平成22年度には本学の卒業生約2万5000人にチラシを配布し、呼びかけました。

外部コラボレーターの候補者は、2月28日、3月1日のフォーラムにも参加していただきました。平成23年度以降も、ホームページなどを用いて継続して募集を行う予定です。外部コラボレーター候補者には、一定時間の研修を実施し、平成23年度以降から外部評価活動に参加していただく予定です。評価のための指標は平成22年度に開発し、OCD内に記述し、配布しました。

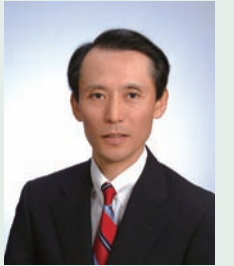
評価・報告

本取組を点検・評価するとともに、その成果を広く知らせてゆくため、毎年下期にフォーラムを開催し、年次報告書を発行してゆきます。平成22年度に行ったフォーラムでは、学外の方々、学内の教職員併せて、のべ88名から参加をいただきました。

平成23年度からは、評価活動にも力を入れ、内部評価と外部の有識者による第3者評価も行う予定です。

能力開発型教育への挑戦

大手前学園 理事長
福井 有



本学は2008年から知識偏重型教育から能力開発型教育への転換をはかるべく、本学独自のC-PLATS®の開発を行って参りました。C-PLATS®とはCreativity, Presentation, Logical Thinking, Artistic sense, Teamwork, Self-control能力の養成であり、全てのカリキュラムにおいてこれらの能力開発メソッドを授業に取り入れる改革を行い、学生はこれらの能力の伸長を自己評価し、学生自らが意欲的に能力開発に取り組むプログラムを実施してきました。

2010年度、C-PLATS®のトータルコンセプトを「問題解決力」とし、6つのコンピテンシーを発展的に10のコンピテンシーに改編・進化させました。問題解決力とは学生が将来どのような道に進もうとも数々の困難な問題を乗り越えて自らの人生を切り開いていくための知的基盤能力です。

本プロジェクトは学生の全ての授業におけるレポート、提案書、小論文、論文、作品、映像等を電子ポートフォリオ化して学生自身、教員、外部評価員が評価できる仕組みを構築するものであり、2011年度にはその基幹システムであるポートフォリオシステムが完成します。

学生はこのポートフォリオによってその能力の伸長を自覚し大きな達成感を得ることが出来ます。それが学生の自信と意欲を高め、困難な問題に取り組むことができる(=就業力)人材として成長させると信じています。

今後も文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に採択された大手前大学・短期大学のC-PLATS®プロジェクトの取組みにご理解とご支援をお願い申し上げます。